

平成28年度第3回総合戦略推進委員会 意見対応一覧表

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
1	(1)人を大事にし、志を育てる	地域づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度はUターンがキーワードになる年だと思う。Uターン率を上げるには余裕があるまちにしないといけない。 親子のつながりが強ければ、進学で県外に出た子どもも地元に戻りたい気持ちが強くなると思う。親自身が子どもの面倒を見るのはUターンにおいても大切。 		<ul style="list-style-type: none"> H28年新成人にアンケートを実施したところ、約6割が「いずれは地元で暮らしたい」と回答。 Uターン希望者は、地縁、実家等の様々な接点がある等移住しやすい環境にあることから、例えば市内に居住している家族等を通じてUターン希望者が欲する就職及び住居等に関する必要な情報(あるいは相談窓口)が的確に伝わるような情報発信の方法を工夫する。 引き続き、積極的に県外で開催される移住相談会にも参加する。 	通年	
2	(1)人を大事にし、志を育てる	人権局 子ども家庭課	<ul style="list-style-type: none"> 親として、病後児保育の制度を整えるよりは、子どもが病気のときに休みやすい雇用形態になることを望む。 事業者の立場としては突然休まれると困る。そのあたりのバランスのとり方が整理できていない。 短時間勤務が定着すればお母さんも働きやすくなると思う。3人でシェアして1人分の仕事ができるような仕組みができれば。 鳥取県やきりと輝く女性推進会議でも働き方について検討している。市も県と足並みをそろえて取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 病気の場合には病後児保育や育児休業制度、短時間勤務制度が拡充されつつあるが、根本的な解決は市町村レベルでは難しい。コストや制度について国等に要請していきたい。その中で市としてどの程度企業に働きかけができるか等を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国及び県では、短時間正社員制度や在宅勤務制度等多様就業型ワークシェアリングの普及に努めるほか、企業における子育てしやすい職場環境整備を推進し、積極的に取り組む企業の認定等を行っている。 本市は、「男女共同参画推進まちづくり表彰制度」を設け、子育て支援やワークライフバランスを推進する事業所等を表彰し、もって市民や事業者の一層の関心や意欲の高まりにつなげている。 県内では経済界が中心となって組織された「女星活躍とっとり会議(輝く女性活躍加速化とっとり会議から改称)」等もあり、関係機関と情報交換・連携を図りながら、また商工会議所等を通じて事業所に普及するよう働きかけていく。 一方、病児・病後児保育事業、ファミリーサポートセンターを活用した身近な子育て支援策を必要とする子育て家庭がある中、必要な事業は継続して実施する。 	継続実施	
3	(1)人を大事にし、志を育てる	子ども家庭課 総合政策課	<ul style="list-style-type: none"> 子育てしているお母さんたちがグループを作り事業をするのが良いのでは。互いに事情が分かる人同士なので、休んだり預けたりもしやすいのではないか。 子育て中のお母さん方が集まって何かをするときに、立ち上げ資金など協力があればお母さん方も提案しやすいのではないかなと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 「子育て中のお母さん」を対象とした起業・創業に係る支援制度・優遇制度等はないが、一般的な起業・創業相談窓口は倉吉商工会議所に設けられている。 県において「とっとり起業女子応援プロジェクト」としてセミナーの開催や女性起業家が集える学びの場づくりを進められている。 起業・創業ではないが、県内企業の多様な働き方の導入促進のため、県のモデル事業として、H29.6に鳥取市に「託児機能付きサテライトオフィス」が設置されたが、その動向や成果なども注視していきたい。 	通年	
4	(1)人を大事にし、志を育てる	総合政策課	<ul style="list-style-type: none"> 県内の転出が増えているが、転出者は単身、家族での転出とどちらが多いかによって対策が変わってくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在本市には転入・転出者の内訳(単身、家族のどちらか)を分析するノウハウがない。金融機関等、ノウハウを持つところがあれば、是非連携させていただき、分析してみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 転出者全体の人数及び年齢区分まではわかるが、単身世帯か、家族かまでは把握していない。金融機関等でも分析はしていない。実態に即した対策を打つには、転出する理由と合わせて状況を把握する必要があると考える。 以前実施していた転出者アンケートは、回答が十分に得られなかったが、ノベルティ配布等して手続きの待ち時間にアンケートの協力をお願いすることである程度把握できると考える。他市の取組状況を研究してみたい。 転入者には、郵送によりアンケート調査を実施中。 	通年	
5	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口の増加に伴って雇用も増え、定住人口が増えるので、観光振興に今より多く予算を配分することが必要と思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 今年6月に「倉吉市観光ビジョン」を策定し、オリンピックイヤーに向けた①観光誘客、②来訪価値の向上、③受入環境の整備を戦略の柱とした施策の方向性を示したところ。こうした施策を具体化するため、国の事業等を活用しながら必要な事業は予算化し、倉吉観光マインズ協会、一般社団法人中部観光推進機構等観光関係団体と連携を図りながら民間主導による観光まちづくりに取り組んでいく。 	平成29年～	
6	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	<ul style="list-style-type: none"> 観光について、大きな目玉がない限りは人は来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の若者が倉吉に注目するコンテンツがあるので力を入れていきたい。PR、発信を上手くやっていき、交流人口の増加に繋げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市が進める白壁土蔵の古い街並み(レトロ)とポップカルチャー(クール)を組み合わせた「レトロ&クールツーリズム」の取組は、内閣府が発表した稼げるまちづくりの取組事例「地域のチャレンジ100」の一つに選ばれたところであり、今後完成するフィギュアミュージアムとも連動しながら、他地域との差別化を図り、新たな来訪者の創出を行っていく。 関金温泉については、開湯1300年祭を機に地域資源の掛け合わせによる磨き上げ、旅行商品につなげていながら、「東大山山麓」としてブランド化を図り、大山を軸とした全県的な誘客施策と連携し誘客につなげていく。 	平成28年～	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
7	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・関金温泉や白壁土蔵群など、PRする以前に、もっと磨き上げて形をつくるべき。 ・クリエイティブなアイデアが、外野で埋もれているものではないか。倉吉を発信するコンテストをやってみると、一般の人から奇抜なアイデアが出るかもしれない。広告代理店に委託するだけでなく、まず市内の団体や大学でやってみるといいと思う。		・資源の磨き上げに関しては、観光ビジョンにおいて「来訪価値の向上」として施策の方向性を示しており、倉吉へ訪れることを目的化してもらえるよう、「体験」「育成」「グルメ」などテーマとストーリー性を明確にした観光商品の造成や魅力向上に取り組んでいく。 ・中心市街地及び関金温泉の観光振興にあたっては、市内民間各団体等で構成する事業体(実行委員会など)を組織して取組を進めているところ。地域おこし協力隊や本市出身のクリエイターが事業に参画する動きが出てきており、大学との連携も図りながら新たな観光商品の開発・情報発信に取り組んでいく。	平成29年度～	
8	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・イベントは大切。里見まつりに関連して交流をすれば、千葉の館山からも来てもらえると思う。		・里見まつりに関しては、例年9月に倉吉で「倉吉せきがね里見まつり」を開催し、館山市ほか全国から里見一族の皆さんに参加していただいている。今年も、館山市から甲冑隊や鉄砲隊に参加していただきまつりを盛り上げていただく。 ・例年10月には館山市で「南総里見まつり」が開催されており、本市からも参加するほか、平成26年度には「関金子供歌舞伎」と「打吹童子ばやし」が舞台上演する等して交流を続けているところ。 ・民間レベルでは、倉吉観光マイン協会が「倉吉せきがね里見まつり」が開催される9月を「里見月間キャンペーン」として宿泊プランの造成等に取り組む、県外からの誘客に取り組んでいる。	平成28年度～	
9	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・境港の鬼太郎ロードのようなものを倉吉にも作るべき。倉吉だけでは荷が重いので、中部広域連合として人を呼べる仕組みを作ることが必要。		・白壁土蔵群周辺の空き店舗の利活用が進み、チャレンジショップ卒業生を中心に若い世代の出店が増えている。 ・倉吉銀座商店街においては、中心市街地活性化の取組の中で民間事業者による新規出店、若手店主中心によるイベント実施等新しい動きが出てきており今後新たな賑わい創出が期待される所。 ・広域観光連携については、「中部ふるさと広域連合」及び「一般社団法人鳥取中部観光推進機構」(中部版DMO)と連携しながら事業展開を行っており、インバウンド等、今後もDMOと連携し、情報発信と誘客に取り組んでいく。		
10	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・商工会議所青年部が30周年事業で行った淀屋の事業などについて、観光の会議において、市と同時進行やすり合わせができたらい。	・淀屋について、大阪では淀屋研究会で毎年熱心に様々なことをされており、地元の方が少し弱い印象。青年部が昨年きかけを作ってくださいだったので、検討課題として考えていきたい。	・「淀屋」という地域資源をいかに磨き上げて観光商品化していくかは課題である。商工会議所青年部30周年記念事業の中で出されたアイデア等を参考に、今後の観光まちづくりを行っていく上で、商工会議所青年部が取り組む事業内容と倉吉がめざす観光施策との連携を図る。		
11	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	総合政策課 観光交流課	・円形校舎を利用し、観光客を呼べたらと思う。		・観光ビジョンでは打吹地区の西側(主に明倫エリア)をクールゾーンとしてゾーニングし、その拠点となる施設がフィギュアミュージアムと位置付けている。倉吉で取り組む「レトロ&クールツーリズム」の推進施策においても重要な役割を担う施設と考えており、各種施策において連携を図りたい。 ・(株)円形劇場が実施する円形校舎活用事業については、平成29年度経済産業省補助金である「地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金」の採択を受けたことより、平成30年4月のオープンを目標に、平成29年度に改修等を行う予定。	平成30年度～	
12	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	商工課	・企業誘致について、気軽に行ける相談窓口等の拠点をづくり、そこで専門家に繋げることができるようになってほしい。 ・昨年も金融機関も協力してやっていくという話があったが、その後どうなったか教えてほしい。	・各組織、各団体の支援体制の連携の仕方について、そのネットワーク化が不十分という認識はある。よろず支援相談や商工会議所、金融機関等と機能的にやっていく体制をつくりたい。	・「とっとり企業支援ネットワーク事業」(県実施)の一員である、中小企業・小規模事業者のための経営相談所「鳥取県よろず支援拠点」が図書館ビジネス相談会を行っている。今年度から回数を増やし、月2回の日中の相談、2カ月に1回の夜間相談を行うこととしている。 (※とっとり企業支援ネットワーク事業は、県内20の機関(商工団体、金融機関等)が外部専門機関の協力を得ながら連携協力し、経営課題の具体的な改善策を提案・実行する事業。鳥取県独自の取組。) ・相談者の掘り起こしについて、金融機関に依頼し相談者を募ってもらっている。企業支援ネットワークの機能を利用しながら相談者の課題解決へ向かう仕組みを構築している。	平成29年度	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
13	(2) 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・自前だと限界があるので、外部委託が一番いい。専門家に委ねるとスピードが速い。東京、大阪、海外の専門家も田舎料金を出してくれる。あるいは地元出身の都会で頑張っておられる方は地元割引をしてくれる。		<ul style="list-style-type: none"> ・本市の「レトロ&クールツーリズム」の取組は、世界的フィギュアメーカーである「グッドスマイルカンパニー」等の協力を得ながら進めており、都市部や世界を視野に入れた広報・販売戦略のノウハウを活用しながら事業展開を行っているところ。 ・関金温泉開湯1300年祭においては、関金出身のクリエイター等の協力を得てPR映像の制作を行った。 ・実施する事業の内容に応じて、外部専門家等と積極的に連携していきたい。 	平成28年度～	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
14	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	生涯学習課	・スポーツ交流の場を活用すれば、関金温泉を拠点として利用する人が増えるのではないかと。 ・体育施設を整備して、温泉でのケア、薬膳を活かし、プロ選手などの有名人を呼ぶ事業が定着すれば、活性化につながる。	・現在、グリーンスコールが大学等を中心にスポーツ合宿を誘致しており、実績もある。 ・体育館の活用は、設備が観光向けでないことが課題になる。	・スポーツや健康を切り口とした交流人口の拡大は地域を元気にする有効な取り組みである。 ・スポーツ合宿誘致促進、大会誘致・大会等の盛り上げを図る観光交流課(スポーツコンベンション)と、関係するスポーツを市民に対して普及していく生涯学習課(生涯スポーツ)とが連携し役割分担して推進していくこととしている。 ・特に、近年クライミングスポーツ及び自転車競技に関する施設充実・大会誘致等の動きがあり、当面これら競技に特化したスポーツコンベンション・生涯スポーツ推進に取り組むこととしており、スポーツを通じた地域活性化を研究していく。		●当面予定する大規模大会 29年度＝「中国中学校ソフトボール選手権大会」、「スポーツクライミング日本ユース選手権ボルダリング競技大会」、平成30年度＝「全国中学校体育大会ソフトボール競技」、平成33年度＝「関西ワールドマスターズゲームズ自転車競技(トラック・ロード競技)」他
15	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	生涯学習課	・県内で大きさのあるフットサル場があまりなく、関金周辺にあれば中国地方近隣のフットサル大会やイベントにも使えると思う。そうすれば宿泊施設として関金温泉が活用できる。 ・現在オリンピックに使われる新しい芝の開発が進んでおり、その芝を整備すれば施設が有効活用できると思う。		・新たな施設整備は困難なことから、現行のとおり他種目との兼用であるが利用可能な施設を有効に活用してほしい。 【利用可能な施設】 屋外3施設:ラグビー場、関金多目的広場(照明あり)、関金屋根付き広場(照明あり) 屋内3施設:体育センター、スポーツセンター体育館、関金健康増進施設 *「オリンピック採用芝の活用=(株)チューブ「ティフランド」は事業計画策定の段階で却下された経過あり。		
16	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・ウォーキングコースを沢山作ったり、久米の農協の方向から米子方面に抜ける道をサイクリングコースとして整備したりすることで、関金温泉が拠点として使えるようになる。	・29年度は関金温泉開湯1300年という事で春から1年かけてさまざまなイベントを予定している。関金の資源を再度見直すことがテーマ。指摘をいただいたウォーキング等に近い案もある。 ・(マイス協会として)ウォーキングコースを作りたいが、そこまで手が回っていないのが現状。温泉をもっと活用したい思いはある。	・29年度には関金温泉開湯1300年祭で東大山を舞台としたトレッキングイベントを開催する。歴史の道100選の大山道と日本の名湯100選を結ぶ総延長48kmの大山古道をなぞるコースは、県の中国自然歩道を活用したロングトレイル構想とも合致しており、大山を倉吉の地域資源とした取り組みとして展開していくもの。 ・サイクリングについては、高城の自転車競技場を拠点として、ワールドマスターズゲームズ2017関西を見据えた誘客施策について現在県と検討を行っているところ。スポーツコンベンションの柱の一つとして観光ビジョンにも位置付けている。	平成29年10月	
17	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・関金子供歌舞伎がとてもいい財産だと思うが、観覧者が少ない。何かしら仕掛けがあれば、子供歌舞伎を続けていける。	・関金子供歌舞伎について、山守小学校が廃校になり、地域の中でどう続けていくか協議されている。地元の中で大切に育てたいため、外に出さないという考えもあるので、地域と調整させてほしい。	・関金温泉開湯1300年祭事業の一つとして実施する「関金伝統文化等体験事業」では、特にインバウンド誘客を意識しながら、御幸行列や里見まつりに付随した日本の伝統文化を体感できる商品開発をねらいとしている。	平成29年9月	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
18	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的事業が少ないと感じる。県立美術館設立も踏まえて博物館もプッシュすれば、観光振興につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館に来ていただくこと自体が難しい。市外の方が博物館に来られることはあまりないので、イベント等を行うことも必要。 ・博物館の収蔵品を町中で展示することを考えている。 ・これまでも洋画、日本画、彫刻展をやっている。著名な作家、先生方との繋がりがあるので、それを活用した公募活動をした。例えば学生を呼び、作品をつくる合宿をするのも面白いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉博物館の所蔵資料を街中で出張展示する、「まちかど博物館」の実施に継続して取り組む(H27年度に2回、H29年度は、5月27日、28日と6月24日、25日に実施し、市内の方に加え、観光客の方にも来場いただいた)。 ・トリエンナーレ事業(洋画、日本画、彫刻)の実施は、市内県内はもとより全国に発信を続けている事業であり、今後も継続して取り組む。 ・著名な作家、各分野におけるスペシャリスト招致における講演会、講座等の開催や、美術大学学生等の誘致による創作活動や発表の場の提供等を行う、「倉吉芸術大学構想」の実現に向けた取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は実施済。次年度以降も、春または秋の気候のよい時期に実施。 ・H29年度は「第10回前田寛治大賞」を8月～9月に実施。 ・「芸術大学構想」は倉吉市教育振興基本計画(第二期)に盛り込み済みだが未予算化なので実施時期は未定。 	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
19	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	博物館	・博物館の中で若い人の声を聞けるチームを作り、新しい方法で発信してほしい。「良い物があるから見に来て」というのは当たり前のこと。それ以上のわくわくするようなことが必要だと思う。		No.18と同様	No.18と同様	
20	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・道の駅犬伏が玄関口にあたるので、今後、道の駅の活用も取り組む必要があると思う。		・国道313号を活用した中部圏域への流入割合は5.7%(携帯電話の位置情報を活用した動態調査による)。 ・他観光資源の整備との優先度を勘案しながら活用策を検討する必要があるが、玄関口であるため、倉吉・関金ならではの地域特産品、名産品の品揃えを良くすることで魅力向上に努めたい。	未定	
21	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	生涯学習課	・民泊でホームステイ、スポーツコンベンションがやりやすいと思う。 ・倉吉や県中部に全国で通用するようなスポーツの専門家が求められる。行政が情報を一元化し、戦略的にやればスポーツコンベンションが増えると思う。	・(委員から)関金では、体験型教育旅行誘致協議会が、養生の郷とタッグを組んで農家民泊、農業体験をやっている。29年は修学旅行団体を300人予約いただいている。北谷にも声をかけており、農家民泊を増やしていこうとしている。農業体験は子どもたちに人気。倉吉市内外に増やしていきたい。 ・市やマイス協会と情報共有して発信するシステムが出来るようにしたい。	・スポーツコンベンション対応についてはNo15と同じ ・関金地域のスポーツ振興にあたり、関金海洋センターの安定的な管理・活用が課題である。このため、体験型教育旅行の充実に関連して、新たなアウトドアスポーツ＝カヌー・自転車によるスポーツ推進を研究しているところ。引き続き、体験型教育旅行の充実にも資する関金海洋センター運営を検討していく。		
22	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	観光交流課	・観光に力を入れて他県や海外から来ていただく仕組み作りが必要。発信や宿泊場所の整備など。開湯1300年のイベント時に、何人泊まれるかということが把握できていない。		・開湯1300年祭に関しては、①関金伝統文化等体験事業(里見まつり、御幸行列に合わせて歴史月間キャンペーンとして宿泊プラン造成)、②健康と温泉フォーラム(宿泊50～70名)、③東大山古道トレッキング(宿泊40人程度予定)が主なイベントとなり、関金温泉旅館組合で調整を行う予定。	平成29年8月～	
23	(2)仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	学校教育課	・はこた人形も本来は子どもに対するお守りと聞く。子どもに知ってもらい、広がればいいと思う。 ・土曜授業で、6年生が同じ中学校区で集まり、はこた人形作りをするなどすれば、顔合わせもできる。	・事業の中で倉吉市の伝統的体験はやっているが、より力を入れたい。 ・小学生が中学校の様子を見聞きする、または中学校の先生が小学校のことを知る活動を行い、小学校から中学校にスムーズに行けるような形を作っていこうと思っている。今はモデル的に行っているが最終的には全市で行いたい。	・現在、小中連携教育を一層推進している。中学校区での情報交換・引き継ぎはもちろんのこと、学習・人権・不登校問題行動・健康安全等様々な面で、共通理解・共通実践を行っている。 ・中学校入学説明会の時に、体験授業や授業参観、部活動参観をするなど、新入生の不安を取り除く工夫をしている。 ・淀屋サミットでも、中学校区で倉吉市のために何ができるのかを話し合い、決定したことを中学校区で実施していく取組をしている。 ・倉吉市の伝統体験については、各校で主に土曜授業を活用しながら実施している。はこた人形については、28年度上灘小学校6年生がはこた人形の歌CD化記念に合唱をした。	現在実施中	
24	(3)地域を守り、地域資源を活力に変える	-	・亀井公園のつつじの山が荒れてしまっているので、整備してほしい。 ・整備し、ウォーキングコースに出来ないかと考えている。		・観光・健康づくりの効果を検証し活用を検討する。整備する場合は、財産区との協議の上で整備を進めることになる。		
25	(3)地域を守り、地域資源を活力に変える	総合政策課	・20時以降に倉吉駅～西倉吉間を運行する夜間時間帯バス運行事業は、実際に効果が出ているか。	・夜間の路線バスは、中心市街地の活性化にはまちを夜型にしなければならないということで、倉吉市が中活の認定を受けるとき国から示された必須条件だったもの。 ・1台辺り5、6人の利用がある。まちが少しでも夜型になる事を目指したものなのでもう少し見守っていただきたい。	・平成28年度における実績として、3,376人(内訳) 20時12分西倉吉発倉吉駅行き 1,904人 20時48分倉吉駅発西倉吉行き 814人 21時12分西倉吉発倉吉駅行き 658人 ・引き続き、運行事業を継続していく。	継続実施	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
26	(3)地域を守り、地域資源を活力に変える	管理計画課	・国道313号を福山から関金までつなげば、企業誘致もでき、関金の活性化につながる。また、白壁土蔵群の観光客が増える。国や県への要望状況はどうなっているか。	・国道313号は、県が地域高規格道路を倉吉・関金道路として整備している。企業誘致・観光促進のため、福山までを平成30年代初めの開通を目指して整備しているところ。 ・県や国に予算の確保をお願いしている。県にも国に予算の要望をしてもらっている。現場の工事もかなり進んでおり、補正予算で国からの予算もつき、事業の進捗が上がっている。一刻も早い開通のため、国の予算の確保をお願いしたいと思っている。	・地域高規格道路「北条湯原道路」は、倉吉市はもとより県中部圏域にとっての高速交通ネットワークを構築する最重要路線であることから、早期全線供用開始が図られるよう国等に次のとおり要望を行う。 (1) 倉吉道路の残区間(L=0.8km)及び倉吉関金道路(L=7km)の整備促進 (2) 山陰道「北条道路」と接続する「北条ジャンクション」の早期事業化による整備促進 (3) 岡山県との連携強化による岡山県側の「初和下長田道路」の整備促進	H29.7に国の対しての要望活動の実施	
27	(3)地域を守り、地域資源を活力に変える	地域づくり支援課	・倉吉市は自治公民館活動がとても活発で、素晴らしいと思う。今後、震災等の面で、倉吉の公民館活動をモデルに仕組みを作ることができる可能性があると思う。		・鳥取県中部地震以降、本市と自治公民館連合会の間で3回の意見交換会を行っており、今後とも継続して意見交換を行ってきたい。 ・自治公民館及びその連合組織においても自主防災意識の高揚が見られる。今後とも自治公民館活動の支援を行ってきたい。	通年	
28	(4)市民と行政との信頼に基づく行政改革	全体観光交流課	・情報発信について、誰に見せるか、いかにタイムリーに仕掛けをつくるかが大事。	・広報、発信が弱いことは認識している。 ・突破口は観光だと思うので、そこを強化したい。 ・「ひなビタ」を中心に全国に名を売ってほしいと思う。	・レトロ&クールツーリズムについては、他地域との差別化を図る観点からは有用と考えている。特にWEB、メディアを活用しながら、発信すべきターゲットを絞り込むなどの戦略的広報を意識している。 ・こうした誘客施策により訪れた観光客がいかに市内で楽しんでもらえるかが肝。今年度は、中国運輸局との協働によりこうした観点での企画検討会を町の事業者・住民組織と行っていく予定である。	平成29年8月～	
29	(4)市民と行政との信頼に基づく行政改革	全体観光交流課	・この会議に出席している人だけが政策を知っているという状況になっているので、復旧している事を市民、県外の皆さんに見せていくと同様に、PR、発信について早く手を打ってほしい。	・ふるさと納税が好調であり、そのほとんどが関東圏からの寄付。これを利用して復興に向かっている倉吉市をアピールしたい。	・平成29年度ふるさと納税パンフレットに復興に向けたメッセージを掲載し、平成29年4月に前年度寄付者に宛てて23,000部余りを発送した。その後も倉吉市のふるさと納税を紹介する紙面には、市長メッセージとして復興に向かっている状況を発信している。 ・平成29年10月14日～15日大阪市で開催される「ふるさと納税大感謝祭」には、地震から1年後の開催時期でもあり、これまでの支援(寄付)への感謝と復興をアピールする場となるよう企画中である。	平成29年度～	
30	(4)市民と行政との信頼に基づく行政改革	税務課 子ども家庭課	・土地、税金や子育てなど、倉吉より湯梨浜などの中部の町の方が安いと聞く。周辺の自治体とどのくらいの違いがあるのか。	・周辺の自治体と比べ土地の単価や子育て対策等の差は縮まったと思うが、まだ周辺町の方が有利である。 ・より安くするのか、他のことで倉吉の魅力を上げていくのかという方向性を定める必要があると考えている。	・地価については対応不可であり、むしろ高くなるほうが望ましい。 ・税率については、平成24年度を最後に都市計画税0.2%を廃止(H23、H24は0.1%)したことにより、差はかなり縮まっている。(倉吉市1.5%、東伯郡4町1.4%) ・中部地震により財政状況が悪化しており、固定資産税の税率を東伯郡4町並に引き下げることが検討していない。 ・個人住民税、軽自動車税については、東伯郡4町と同じ税率である。 ・保育所保育料について、県内中部地区の団体は、東西部地区の団体に比して相対的に低い設定となっている。国、県の経済的負担の軽減策を活用した施策を継続して実施していく。 ・子育て支援施策においては、現在でも相当の一般財源を投入しており、さらなる保育料の軽減は財政に与える影響が大きい。量の確保、質の向上により子育て支援における本市の魅力を高めていくことが重要と考える。	現行施策、制度の継続	

No.	基本目標	担当課	意見・検討事項	委員会での回答内容	今後の取組	実施時期	備考
31	(4)市民と行政との信頼に基づく行政改革	総合政策課	・地方創生と復旧復興が同時進行ということだが、実際、地域の方や事業主と接する中で、やはり復旧復興の方が優先されるべきと思った。	・復旧復興は倉吉にとって大きなテーマだが、まちをどう良くしていくかということで総合戦略と大差はない。予算配分は変わってくるが、出来るだけ両立させていきたい。	・鳥取県中部地震による住家の被害は9,000件を超え、リ災証明書の発行はほぼ終わってきたが、創設した住宅再建・修繕支援金の申請は3割程度となっており、再建はまだ始まったばかり。 ・平成29年度予算については、震災からの早期の復旧・復興への取り組みを最優先として必要な予算を計上。 ・また、総合戦略掲載事業についても、平成29年度に予定されている事業に必要な予算が計上されている。	年間	
32	総合戦略全体	総合政策課	・今回の災害(地震・大雪)をきっかけにもう少しスピードアップをする必要がある。こうした会議を開くのもいいが実際のアクションが遅いように感じている。		No.31と同様	No.31と同様	
33	総合戦略全体	総合政策課	・施策を絞り定期的にチェックしながらやっていかないと、全部を100%やる事は難しい。やってもあまり効果がないものは早めに事業を切りあげることも必要。		・平成29年度においては、進捗管理を四半期に1回実施し検証を行っていく。 ・必要に応じて事業の整理等を行いながら平成30年度以降の取組に反映させていく。	平成29年7月、10月、平成30年1月、3月	
34	総合戦略全体	総合政策課	・倉吉市として今後何を目指していくかが定まっていないように思える。	・昨年から地方創生総合戦略として委員の皆様にご協力いただき、倉吉市が何をどう目指すべきかを組み立て、公表している。 ・倉吉の移住定住や子育ての環境を良くし、産業を盛んにすることで「倉吉で暮らすのはいいことだ」と思われるまちにしようとしている。 ・指摘があるように、発信が弱いので努力しなければならない。	・「くらしよし倉吉」の実現に向けて、総合計画及び総合戦略に位置づけている各施策に取り組んでいく。 ・暮らし良さの評価については、東洋経済新報社が毎年公表している「住みよさランキング」では、「安心度」の観点で4年連続全国第1位、総合評価では全国第72位、中四国第4位、県内1位の評価を受けている。 ・この評価を市民の皆さんに実感していただくことが大事であり、丁寧な説明や情報発信に努めて市民満足度を上げていく。また、それにより市外からの移住者・交流人口を増やし、産業の振興につなげていく。	年間	